● 読書感想文コンクール　中学校の部 ●

優秀賞

石田　雪葉（いしだ　ゆきは）　第一中 ３年生

作品名：時間の大切さ
図　書：モモ

「時間」とは何か。私はこの『モモ』という作品を読み、そう思った。私が普段何気なく生活している時に使っているものだが、目には見えない。さわれもしない。この作品では灰色の男たちが人間から時間を奪っていくのだ。

私は最初、一日に一、二時間くらいなくなっても問題ないと思った。なぜなら、話の設定では、その節約した時間が利子つきで返ってくるというものだったからだ。逆に、一、二時間が一日からなくなったら、どうなるか考えてみた。すると、自由な遊べる時間がなくなるのではないかと思った。それは、駄目だと思った。私は自由な時間とは、「人間の個性を表す時間」だと考えるからだ。人間は個性がなくなってしまったら、どうなってしまうのだろう。笑顔がなくなってしまうのではないだろうか。さらに、物語の終盤にわかることなのだが、「節約した時間」は返されないのだ。つまり、一日が短くなり、人間の笑顔が段々と減っていってしまうのだ。

この物語の主人公モモは、「相手の話を聞く」ということができる。それを私は簡単だと思った。なぜなら、友達と話すときでも相手の話を聞いていると思ったからだ。しかし、モモの話を聞くということは私が思っていたものとは全く違った。例えば、けんかをしている二人の間にモモが入る。そして、モモが大きな黒い瞳で二人を見る。すると、二人は共に話し合い、文句を言い合ったりして仲直りするのだ。そこの部分を読み、私にはこのような力はないから、すごいと思った。また、憧れた。モモは「友達と過ごす時間」を大切にしているのだ。モモがしていることは時間を節約している人とは逆である。つまり、灰色の男たちを邪魔することになったのだ。ここから、私は「人と過ごす時間」を大切にしようと思った。

この本を読んでから、思ったことがあった。それは、今年の始め、
「鹿児島のひいおばあちゃんが百二歳になるんだって。夏休みにみんなで会いに行こうね。」
と、母と話していた。しかし、四月に曽祖母は亡くなってしまったのだ。時間は、

一人一人の人間に平等にある。だから、時間は有効に使い、したいと思ったことは、すぐに行動に移そうと思った。なぜ春に会いに行かなかったのだろうと後悔した。過ぎ去った時間は、返ってこないのにと思った。また、人間の命の大切さを改めて感じた。

私はこの本を読み、自分のしている仕事で成功しても、幸せではない人もいることがわかった。なぜなら、友達と話す時間もなく、自由な時間がなくなるからだ。人々は段々と速口になったり、せっかちになったり…。ゆっくりとした時間を過ごすことの大切さがわからなくなってしまうのだ。何かをしていなければ落ち着かない。小さい子供のように大きく広い心を持つことが大切なのではないかと思った。

最後のモモが、灰色の男たちと戦うところでは、一時間のタイムリミットがある中での勇気ある行動に感動した。私がもしモモだったら、時間泥棒から世界を救うことはできなかったと思う。なぜなら、自分一人にしか世界を救えないというプレッシャーに勝てないと思ったからだ。また、一人だと勇気が出ないからだ。私はこれからは、もし一人で大きな困難にぶつかっても、勇気を出して乗り越えていこうと思った。

以上のことから、「時間」についてもう一度考えてみた。私は「時間」とは、有限であり、皆に平等に与えられているもの。また、「過去」「未来」「今」という三つのもので出来ている目には見えないものだが、この世の中に存在する大切なものだということがわかった。私は普段、好きなことをして夜遅くに寝て、遅くに起きている。それも時間をとても無駄にしている。「自分のために使う時間」も大事だが、「人のために使う時間」を増やしていくことが、楽しく日々を過ごすことにつながっていくと思う。そうすれば、皆と楽しく時間を共有することができると思う。

最後に、時間とは、目に見えず、誰にでも与えられているものだが、その使い方によって、その後の人生に与える影響が大きいものだと改めて感じた。これから生活していく中で、時間を無駄にせず、命を懸命に生き、笑顔を増やしていこうと思った。時間の大切さを知ることができて良かった。